



考える会の目的を共有し、堅固な茨城県がん地域医療を考える会を作ろう

第三期 理事長 佐藤好威

平成28年度は、茨城県がん条例の制定とがん対策予算の施行、そして、がん対策基本法の改正が行われ、県も国も新たながん対策が始まった年度でした。

当会におきましても、起伏の多い1年でした。何よりも、活動資金である県の助成金の目途が立たず、資金調達のためのチャリティ・コンサートの取り組みからスタートしました。新しい試みで、会内にも異論がありましたが、何とか目標の資金を得ることができました。しかし、県の助成金に依拠することを前提とした場合の活動計画、事業の開始時期などは見直しが必要と痛感しました。

今年の活動の**特徴**は、医療機関との連携が強まったことかと思えます。連携講演会が数多くありました。水戸医療センターのがん市民セミナーでは、ポスターセッションが恒例となっていました。今回は過去3年間の実績を口頭で発表いたしました。鹿行地区がん市民セミナーでは、Tさんががん体験談を発表しました。さらに、第17回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会に招かれ、理事長が教育講演を、Yさんががんサロン運営の現状について講演をいたしました。2月には、水戸医師会看護専門学院の卒業記念講演会で、講演とがん体験発表を理事長とHさんが取り組みました。また、がんサロンハマナスの勉強会で、在宅看護センター「和音」の所長を招き、講義をいただきました。さらに、医療法人社団いばらき会の在宅療養支援所とうかいの所長にも講義をいただきました。最近では、茨城産業保健総合支援センターの方々が、就労支援の傍らでサロンを見学しています。これらの連携協同活動は、がん患者家族ががんの地域医療の進展に寄与、がんの地域連携が着実に進んでいることを示したものであると思います。

世話人養成講座は、複数会場の開催を取りやめ、県央会場のみになり、午前の世話人養成講座と午後の県民公開講座の2部制にして実施しました。演者の質と講演内容は、これまでにない上質

なものとなりました。

がん教育は、過去2年間の3中学校での実績を踏まえ、新しい発表者も加わり、生徒たちに何を伝えるかの基礎ができたと思います。特に、昨年の反省点であった教育の現場で、がん体験を話すことの意味と内容については、がん医療の流れに沿って、煮詰められ、深められたように思います。特筆すべきことは、1年生担当の先生方から感想文を頂いたことです。がん教育に教師の席もできました。

当会が関わるサロンは4カ所です。しろやまざくらは、今年7月で4年目。友部やまびことなでしこは3年目、ハマナスは2年目となります。それぞれが課題を抱えつつも、**定期的に着実に開催**されています。ここをしっかりと確認し共有したいと思えます。また、サロンの内容も、勉強会、軽体操など工夫が凝らされ、発展しつつあります。

しかし、一方で、会の力量の脆弱さも目につきました。新入会員はあるものの、古参の会員の卒業が目につきます。卒業者の多くは、会の目的の理解が薄く、入会時の自身の思いを実現することなく去って行っていることです。

当会は、県内がん患者会でも数少ないNPOの法人格を有し、定款を定めた組織であること。さらに、定款に基づく活動として、議会や行政、医療機関とも「がん医療」について真剣に話合う有為の組織であること。加えて、がん医療の発展に、行政・医療機関等と協働し、自発的に行動を行う組織であることなどを真摯に受け止め、より一層の発展を遂げていけるよう励みましょ。



会員 富永文子さんの死を悼む



1月、NPO 法人茨城県がん地域医療を考える会の会員女性の葬儀があった。まだ60歳前の現役女性。末期がんの宣告を受けてからの生き様はすごかった。当会の係わりもそのころからだ。先ずとにかく、息子の大学院修了式に着物で出席したい思いで、仕事も日常生活も頑張りました。そして、修了式に出席し、息子さんと並んだ写真も撮ったと、笑顔で報告に来ました。さらに、自分の体験を子どもに伝えたいと、がん教育にも積極的でした。

がんの授業を参観して

明光中学1学年担当の先生

- 息子さんと写真を撮ることを励みに頑張っているという話にとっても感動し涙が出ました。同じくらしいのむすめがいるもので、またがんでも薬があれば、仕事に復帰したり、普通の生活ができたりすることが分かり、少し怖さがなくなりました。
- がんについて今までのイメージと違い細胞の変化であったり、仕事に復帰出来たり、治りまではしなくても、直ぐに死に直結する病気ではないことが分かりました。身近にそういった方がいる場合への理解が深まりました。さらに体験者の方の話もとても素晴らしく心に残りました。
- がんという言葉に対して、生徒たちは「死」や「助からない」というイメージを持つものが多く、私自身もその一人でした。しかし、講師の方のお話を聴くことでがん＝終わりではないことを知ることができました。頭ではわかっている、実際に体験している方のお話を聴くという体験は、衝撃的で、心に響くものでした。生徒にとっても、我々教員にとっても貴重な体験でした。ありがとうございました。



2017年春

佐藤好威

鹿島アントラーズがサッカー天皇杯決勝で勝って、年が明けました。茨城県の代表チームが勝ったのです。昨年1年の実績から考えたら、当たり前かもしれないが、今年は勝ってほしかった。茨城県のチームでも、最後まで突き抜ける強さを有していることを示してほしかったからだ。そして郷土力士稀勢の里が優勝、横綱昇進、奇跡の二連覇達成は、茨城県人の人間力を示してくれ、絶賛に値する。

都道府県「魅力度」ランキング最下位(ブランド総合研究所)、「別に行きたいと思はない」都道府県ランキング第1位(gooランキング編集部調査)等不名誉な世評が拡散した昨年。よそ者の私でさえ「何故?」と思わずにはいられなかった。加えて、このような世評に、アンケートのとり方が問題だとか、開き直って最下位がどうしたとか、広報が下手だとか、さらには、それでも皆、平穩に暮らしていけるのだから良いだろう等の反応しか聞こえてこない。

一方、私の友人からは、茨城県には、魅力を後押しする「文化」も「教養」もないからだ一蹴された。

がん授業では、体験発表の内容を子供向けに吟味し、がんを持っていても、仕事も人生もいっぱい頑張れることを優しく話しかけていました。生徒たちの、いつもは一行程度の感想文が多い中、彼女の話には皆、長文の謝意の文章を綴ってくれました。加えて、市民セミナーでも体験談を発表いたしました。セミナーでは、大人の方を対象に、現役職業人の目線から、切々と今を語ったそうです。終了時には聴衆が長蛇の列を作って握手と励ましを伝えに来たとのこと。本当に貴重な方を失いました。ただただ、合掌です。

がん教育実践記録

笠間市立友部中学校、茨城町立明光中学校、茨城町立青葉中学校において、昨年実施したがん教育の報告書から抜粋で、生徒たちのがんへの思いを紹介する。



① 「がん」についての授業前イメージ

がんについてのイメージは、下表中に列挙した表現が多数記載されている。

「がん」についての授業前イメージ

	文 言
がんへの負のイメージ	怖い、治らない、治療もできない、年齢に関係ない、心身をも傷つける重い病気、重い、辛い、苦しい、大変な病気、辛くて重い、見たことがない、死に至る、一生治らない、絶対に治らない、苦しくて大変な病気、がん=死、絶対なりたくない病気、遠い話、

特に「怖い」「苦しい」「辛い」の文言が多い。表中の語彙を文章にすると、「自分は見たこともなく、遠い話であるが、年齢に関係なくかかり、罹ると辛く、苦しく、治療もできず、絶対に治らない病気。身体も心も傷つける重く大変で、死に至る病気なので、絶対にかかりたくない」となる。個々の文言は、すべて正しいとは言えないが、中学生が抱くがんに関するイメージがつかめる。しかし、これらの印象は、中学生ばかりでなく、大人もほぼ同様な思いを抱いているのではないか。がん病巣は日常的には、見たくも触れたくもない事象であろう。しかし、がん患者は、100万人前後毎年発症し、その1/3はそれで亡くなる。目をつぶり、避けて通るわけにはいかない疾患だし、払拭することもできない。されば、真剣に向き合うことが求められる。これが、がん教育の狙いであろう。当教育の評価項目は、①がんを正しく理解すること、②がん患者への理解を深めること。

私は、5年前茨城県に移住、子供の頃から焼き付いた水戸黄門の世界に飛び込んだ。三の丸の空堀の美しさに圧倒され、西山荘の簡素なたたずまいに古(いにしえ)のご老公を思いやった。しかし、城下町水戸に藩政をしのぶ面影が薄かった。弘道館があり、偕楽園があり、好文亭があり、多種多様な梅ノ木が添えられているが、大名の城下町としての重厚な風情がない。唯一、県立歴史館の中に水戸藩250年の霊を感じた。

そんな思いの中、茨城県の魅力を探るも中々見いだせない。逆に、魅力が生まれにくい素地の方が見えてきた感がある。それは、不評の世相に対する県人の反応にあった。常陸の国、常陽の郷はおそらく、昔から豊穡な土地柄、温暖で自然災害も少なく、抱えた土地を使いこなせば食べていけるし、生きていける。平均年収も全国ランキングでは上位。あとは家族と身内の中で協力し合えば、人並みの生活に不自由しない。県や市や町を見渡す俯瞰的視野や歴史観も必要ない。今と明日の生活があればいい。そんな思いが永年培われ、あと一歩、あと半歩突き出る意欲が薄くなってきたのではないか。その空気に飽き足りない優秀な人は県外へ出ていき、若者は東京に移り、戻ってこない。戻ってきても楽しい日常や刺激的文化や人材が見つからないのだ。

文化がないと言った友人の言葉の背景を調べてみると、確かに国宝級の文化財は2件、特別指定文化財は3件と多くはない。しかし、国指定の重要文化財は鹿島神宮などの建造物32件を含め美術・陶芸・彫刻等120件弱(以上県教委資料より)がある。数的には決して少なくはない。都道府県格付け研究所の「国宝・重要文化財総数ランキング」でも、71件で全国33位、魅力度ランキング上位の北海道や長崎県、沖縄県よりも多い。また「都道府県立自然公園数」もランキング10位で東京や福岡、京都よりも多い。

なのに、なぜ、上記の不評が生じたのか。それは、その地域の受け継ぐべき、守るべき、伝えるべき文化や自然への市民の責任感と関心の薄さではないだろうか。更に加えれば、それらを継承維持しようとする人々への支援の無関心さであろう。多くの古都には、ヒトを育てる素地と文化がある。それらに育まれて見本となる突き抜けた先輩たちがいる。逸材を育てるには、地域ぐるみで成し遂げようとする社会的支えが必要ではないか。天の恵みに甘んじることなく、現状の平穩に埋没せず、孫やひ孫の世代が、魅力豊かな郷土で生き生きと暮らせる風土を作るべきではないかと思う。

今、茨城町の涸沼湖には、絶滅危惧種ではあるが、健気に生息し続けるヒメイトトンボが棲む。1971年7月7日に発見された日本固有種だ。数の減少の最大の理由は、開発による生息地の減少に

よるとのこと。体長が30mmと小さく、他の生物に食されることから、種の保存のため塩分濃度の高い汽水湖で繁殖し続けてきたらしい。トンボは古代生物の代表の一つ。こんな貴重な生物を抱く、茨城県。県民の宝として、地域ぐるみで保護し、支えて行ければと思う。産業の誘致や広報等のみならず、自然と未来のために、鹿島アントラーズや稀勢の里のように一歩突き抜けようとする人材育成へ県民の意識の注力と変化が求められているのではないか。

人生いばらの道されど宴会

塙 喜一

宴会というとお酒が入って賑やかに過ごすことを連想するかもしれませんが。家族や親しい人とお酒でも飲みながら歌ったり語り合ったりしたら楽しいでしょう。ですが、ここでの宴会とは、一人で出来る「心の宴会です」(自分お楽しみです)。がんで苦しんでいる人が束の間でもがんで忘れることもあるのではないのでしょうか。そんなときはきっと親しい人の顔や好きな音楽・趣味のことを考えたりしているのではないのでしょうか。こうした心に残るできごとや言葉や観劇を思いだし、いい気分になるひと時、これが「心の宴会」なのです。「心の宴会」をたくさん持てば苦しみや傷ついた気持ちを忘れる時間は増えてきます。だから、こうした宴会を沢山持つ必要があるのです。すなわちがんになっても「人生は続いている。いばらの道であればこそ、病気を忘れて楽しまなければ損です。」自分本位でいいでしょう。人の一生はどこかでいばらの道に踏み込むこともあり、決して何事も無事にといいわけにはいきません。誰もが、人生に一喜一憂することがあるでしょう。それでもどんな境遇でも、人生は楽しまなければならないと思いながらボランティアに参加して、年配の方とこれからの自分を思い描いて楽しんでいます。困難に見舞われたときこそ「心の宴会」に身を委ね微笑みを取り戻してほしいと思います。そのひと時が自分の思う以上にいばらの道を力強く踏みしめて歩く力になることを信じて……。

がん患者サロンの近況

しろやまざくら

このサロンは明るい。そして、年間平均20名が参加する。偏に参加者の熱意によるものだろうが、病院当局の協力も大きい。ちょっとした無理も快く応じてくれる。感謝の一言だ。7月からは開設4年目に入る。より長くより楽しく、内容の濃いサロンにしていきたいと思う。

ハマナス

苦勞のかがあった。毎回10名余りの方が参加するようになった。目標数字は15~6名だが、毎回あたらしい方が見えられ、さらに患者の家族の方も来られる。病院側の協力は誠実で、温かい。この病院のサロン勉強会は、演者が勉強熱心でかつ話が上手だ。いつも感心している。

友部やまびこ

県内がん拠点病院の中核。いろいろな意味で範を垂れていただきたいが、今その域に達していない。しかし、リハビリ体操やギター演奏などがルーチン化され、特色が出てきた。あとは、参加人数の増加と病院との良好な連携の構築だ。もうひとつ頑張!

なでしこ

世話役の友部さんの頑張りで、ユニーク活動が光る。何より病院当局の運営方針との協議が効を奏している。現状の発展を持続させたい。願わくは、参加者の増加が望まれる。



サロン情報

サロン例会開催日

サロン名	備考
友部やまびこ	毎月第1月曜日13:00~ 県立中央病院研修センター
なでしこ	毎月第1木曜日14:00~ 済生会病院丹野ホール
しろやまざくら	毎月第3火曜日10:00~ 水戸医療センター患者教室
ハマナス	毎月第4木曜日11:00~ 茨城東病院療育訓練棟

各サロンの年間勉強会テーマ予定

新年度の各サロンの勉強会ならびに行事予定表です。課題、演者等に変更があるかもしれませんが、それにつきましては、随時、お知らせいたします。なお、月1回のサロン例会は各曜日が決まっていますが、時期的変更もありますのでご注意ください。

① 水戸医療センター しろやまざくら 平成29年度勉強会予定

開催日	内容	担当者
4月18日	免疫とがん	植木名誉院長
5月16日	腫瘍マーカーとその読み方	☆現在調整中です
6月20日	がん治療と口腔衛生	摂食嚥下認定看護師 永山愛子Ns
7月18日	サロン開設3周年記念式典	院長 講話
8月15日	自由テーマ	患者発表
9月19日	分子標的薬とは	薬剤師
10月17日	痛みとその緩和	がん性疼痛認定看護師 木村梨奈Ns
11月21日	インフルエンザ対策	感染管理認定看護師 岩島知子Ns
12月19日	クリスマスイベント	副院長講話
1月16日	自由テーマ	患者発表
2月20日	看護師のがん患者の傾聴	がん化学療法認定看護師 細谷恵美Ns
3月20日	相談支援センターの役割	

② 県立中央病院 友部やまびこ

平成29年度友部やまびこ勉強会予定

開催日	内容	担当者
4月10日	相談支援センターの役割	吉川院長挨拶 MSW馬込
5月8日	看護師によるがん患者の傾聴	専門看護師 柏
6月5日	開設4周年セレモニー	
7月3日	大腸がんの治療と予後	認定看護師 鈴木
8月7日	自由テーマ	
9月4日	分子標的薬とは	薬剤師 立原さ
10月2日	痛みとその緩和	未定
11月6日	インフルエンザ対策	認定看護師 宮川
12月4日	クリスマスの集い	
1月9日	自由テーマ	
2月 日	がん治療と口腔衛生	認定看護師 加倉井
3月 日	肺がんの治療と予後	呼吸器外科医師

③ 済生会総合病院 なでしこ

平成29年度なでしこ勉強会予定

開催日	内容	担当者
4月6日	メディカル・ヨガ	日本ヨガメディカル協会 岡部明子
5月11日	3周年記念セレモニー	
6月1日	6月以降は検討中	
7月6日		
8月3日		

④ 茨城東病院 ハマナス

H29年度勉強会予定表

月日	勉強会テーマ	演者
4月27日	診療看護師の業務とがん患者	診療看護師 川崎竹哉
5月25日	メディカルヨガとは	日本ヨガメディカル協会岡部明子
6月22日	がんの検査法 X線、CT、MRI、PETとは?	診療放射線技師長 菊池 一聡
7月27日	開設1周年セレモニー 「分子標的治療法」	
8月24日	がんの病理学	病理診断部長 南 優子
9月28日	がん患者とMSWの仕事	医療社会事業専門職 中山裕暁
10月26日	がん患者のための食事のとり方	管理栄養士 里見麻希子
11月16日	がんリハビリについて	作業療法士 笹田直子
12月21日	クリスマス会と音楽療法	
1月25日	訪問看護の現状	在宅看護センター和音 黒沢薫子
2月22日	臨床検査値について	臨床検査技師 永井信浩
3月22日	肺がん患者の体験談	

NPO法人茨城県がん地域医療を考える会事業

日時	事項
4月23日	第4回定期総会
未定	がん授業
未定	世話人養成講座
未定	県民公開講座

編集後記:

天候が不順で気分もなかなか春になりませんが、4月3日ようやく桜の花の開花宣言。NHK朝ドラで「ひよっこ」が始まりました。茨城県北部の農村を舞台にしたフィクションですが、茨城県の自然と人間と文化を存分に紹介してほしいと思います。出演者も好感の持てる方が多数出ており、楽しみです。S

発行: NPO法人茨城県がん地域医療を考える会
TEL/FAX 029-306-8406、
mail:y-sato@blue.ocn.ne.jp